

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成28年度採択分）
「分析科学技術の国際情報発信強化への取組」
（課題番号：16HP1001）

学術団体名：公益社団法人 日本分析化学会

学術刊行物の名称：Analytical Sciences

事業期間：平成28年度～平成32年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

本誌は創刊30年を経て、新たな成長戦略に基づき国際プレゼンスを飛躍させビジビリティを向上させるステージにある。以下の3項目を柱として国際情報発信強化戦略を推進する。

- (1) ジャーナル内容の基盤強化策：魅力のある特集号の増刊，受賞者投稿および優良投稿リピーターの確保，日本分析機器工業会との連携によるプレゼンスの強化。
- (2) 編集者・学会事務局と組んだ情報発信強化策：投稿者への利便性の強化，アジアからの編集委員参加によるアジア戦略，編集事務でのバイリンガル非常勤職員の雇用，英文学会ホームページの新設。
- (3) 国際分析化学雑誌（米・英）編集者と組んだ情報発信強化策：IF解析と向上戦略，世界をリードする分析化学研究者5000人へのメール配信によるプレゼンスの強化と投稿の呼びかけ，サイテーションアラートによる優良論文の獲得。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

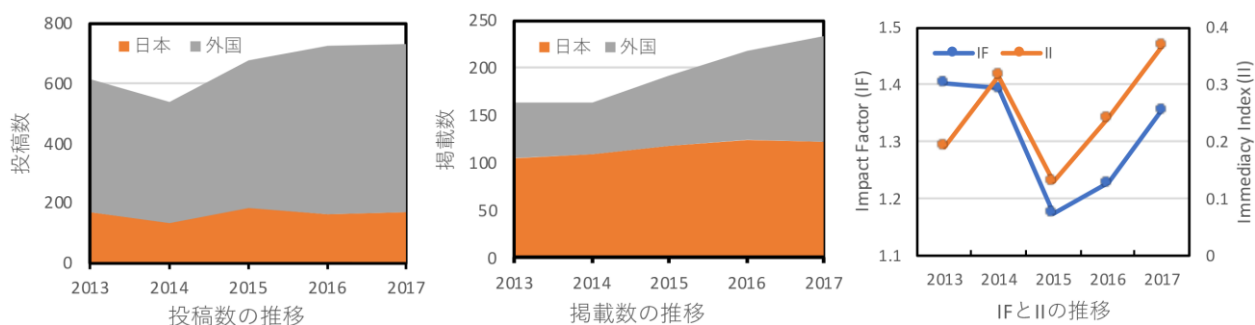
2016年からの5年間で米国化学会や英国王立化学会の世界をリードする国際分析化学雑誌と肩を並べるレベル（Impact Factor, IF: 3.5）まで，向上させることが目的である。

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

- (1) 魅力のある特集号の増刊（2016～2018年で8特集を企画・出版）と著名研究者による総説の増強を行った（2016～2018年で19報を出版済み）。J-STAGEの早期公開システムの利用を開始し，アクセプトから刊行までの時間を2ヶ月から1週間に大幅短縮した。
- (2) 新たに12名の海外の分析化学者を海外編集委員（中国6名，オーストラリア2名，韓国1名，台湾1名，シンガポール1名，インドネシア1名）として任命し，アジア戦略の一環としてエディターとしての編集業務に参画させるとともに，各国からの投稿の呼びかけを行うよう依頼した。
- (3) 杏林舎のAuthor Connectを利用し，分析化学研究者へ本誌の魅力あるコンテンツを電子メールにより配信し，本誌の認知度の増大を図ると共に投稿促進を行った（メール配信実績（のべ）：2016年5000件，2017年5000件）。Clarivate Analytics社のCitation Notice Serviceの利用を開始し，解析結果をもとに，ゼロサイテーション論文著者に対する引用促進メール配信の方法を検討開始した。新たに「Highlights」をカバーページに設け，過去2年間のホットな分析法や応用をエディターが紹介する記事を掲載した。

上記の取組から，論文投稿数は申請時2014年の541報から順調に増加し2017年で732報（うち海外から563報），ダウンロード数は申請時の398,778件から2017年で532,493件と大きく増大しており，2年目標の投稿数800/年，ダウンロード数60万件/年に近づく成果を得ている。また，掲載論文数は申請時の143報から2017年で234報（うち海外から112報）となった（目標値：300報）。なお，引用数は2016年で437件，2017年で557件，IFは2016年が1.228，2017年が1.355と，順調に数値を伸ばしている。対象年の論文の同年中の引用を示すImmediacy Index (II)は当該助成を受け始めた2016年以降大きく伸びており，IFの今後の増加が期待できる。



・今後の計画

- (1) ジャーナル内容の基盤強化策：レビューの戦略的拡充，“Quality First（論文の質が第一）”をモットーによる丁寧な審査，サイテーションの多い著者に対する表彰，サイテーションがゼロの論文の解析と引用奨励。
- (2) 編集者・学会事務局と組んだ情報発信強化策：Facebook等SNSを利用した情報発信，自動リマインドメールによる審査・改訂・編集プロセスの迅速化。
- (3) 国際分析化学雑誌（米・英）編集者と組んだ情報発信強化策：Advisory board memberの増強と機能強化，国際会議の際に，Anal. Chem., AnalystとAnalytical Methodsのeditorを招き，本誌主催の分析化学シンポジウムを開催。